

令和 1 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	(都市文化)都市総合文化施設運営事業	会計名称	都市総合文化施設運営事業特別会計			担当課	都市住宅課	
		予算科目	1 款 1 項 1 目	事業番号	6900	所属長名	三谷陽紀	
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)					担当責任者名	小寺卓也	
法令根拠等	伊予市都市総合文化施設条例					実施期間	【開始】	令和/平成 20 年度
総合計画での位置付け	生涯教育都市の創造 個性豊かな文化の振興						【終了】	令和 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	市民等の教養及び文化の向上を図る。							
事業の対象	伊予市都市総合文化施設 ウェルビア伊予及びその利用者				事業の目的	伊予市総合文化施設 ウェルビア伊予の現有施設を有効に活用し、市民等の教養及び文化の向上を図る。		
事業の内容 (整備内容)	伊予市都市総合文化施設 ウェルビア伊予の指定管理者の監督指導及び施設の改修等				昨年度の課題に対する具体的な改善策			

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	1 年度予定	9月末の実績	1 年度実績
直接事業費	43,409	40,154	0	0	0	38,204	宿泊者数	人	16540	17000	8947	15922
財源内訳												
国庫支出金	0	0	0	0	0	0						
県支出金	0	0	0	0	0	0						
地方債	0	0	0	0	0	0						
その他	43,409	40,154	0	0	0	38,204	体育館利用者数	人	25784	19000	12266	23775
一般財源	0	0	0	0	0	0						
職員の人工(にんく)数	0.30	0.30				0.00	研修室利用者数	人	58749	57000	30469	55355
1人工当たりの人件費単価	7,982	7,992				7,992						
※ 直接事業費+人件費	45,804	42,552				38,204						
主な実施主体	直接実施及び指定監理		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		指定管理料 0円	納付金	千円	6610	7000	0	237	
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	5年間の合計		
					50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	250,000		
成果指標	指標	平成20年度の施設利用者総数(391,467人)を100とした係数			⇒	区分年度	前年度	1 年度	2 年度	目標	毎年度	
	指標設定の考え方	指定管理者に移行してからの利用者数を比較して、次年度の営業、施設運営及び修繕計画等の資料とする。				目標	124	125	125	125		
	指標で表せない効果					実績	128	116				

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		施設の老朽化が顕著であり、計画的な改修が必要である。									
事務事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	3	合計点が	A	事業成果・工夫した点	ブルーテントの改修においては、風雨及び紫外線等の劣化を考慮し脱着式のテントで施工し、シーズンのみ設置することとした。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市の積極的に関与・実施すべき事業である。	3						
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	3	合計点が	A				
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	3						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多量である。	4						
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が	A	事業の苦勞した点・課題	施設の延命化を図るため修繕や工事の工夫が必要である。			
		コスト効率	5 4 3 2 1 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	3							
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	3							
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が			A	事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業継続と判断する。</li> <li><input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する</li> <li><input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する</li> </ul> (判断の理由) 市内外から年間50万人が利用する主要施設であり、教養や文化の向上を図るための施設であるため。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市の積極的に関与・実施すべき事業である。	3						
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A					
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	3							
		施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多量である。	3							
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が	A	所属長の課題認識	指定管理者との定例会等で情報共有に努め、利用者のニーズに合った運営や利便性の向上等、計画的な更新を図ると共に、施設の有効活用による収益増の方策を検討する必要がある。				
	コスト効率	5 4 3 2 1 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	3								
	市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	3								

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 平成30年度から8年間で第2期（H30～R6）として営業をしている。プロポーザル審査委員会で提案のあった売上げ、入場者、自主事業計画などに大幅な相違がないか検証を行い、評価シートへ記載して分かりやすくすること。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断会議	事業の方向性		コメント欄
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	